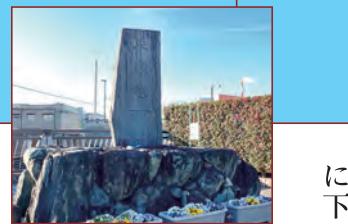


静岡の道の歴史

企画・制作／静岡新聞社地域ビジネス推進局

道が歴史をつくつた！?



平家が陣を張ったのは、現在の富士市新橋町のあたり。昔はこのあたりを富士川が流れていました。この地は「平家越」と呼ばれ、今も石碑が残されています。

そしてその交わる場所が戦いの舞台富士川沿いにあつたということです。このように、昔から、道が交わる場所は重要なところでした。今でいえば、山梨と静岡を結ぶ中部横断道と国道1号との関係にも似ています。そう考えると、850年前の出来事も身近に感じることができるでしょう。

時は平安末期。国を治めていた平氏と東国に拠点を持つ源氏がしのぎを削った「源平合戦」は、その後の歴史を大きく動かした出来事でした。静岡県内で繰り広げられた合戦で有名なのが、富士川の戦いです。武田信義率いる武田軍（甲斐源氏）は、平維盛率いる平家軍と川を挟んでにらみ合いを続けていました。しかしその夜、水鳥が羽ばたく音に驚いた平家軍が戦わずに逃げ出したことで、武田軍に勝利をおさめた

ところです。この戦いの主役となつた武田の本拠地である甲斐（現在の山梨県）から駿河に下る道が、もう一つはこの戦いの主役となつた武田の本拠地である甲斐（現在の山梨県）から駿河に下る道が、



源平盛衰記 駿河国富士川合戦(歌川国芳) 富士山かぐや姫ミュージアム所蔵
川から水鳥の大群が一斉に飛び立つ様子が描かれています